

新島村の景観の現状と課題

1. 距離別に俯瞰的にみた景観の特徴

◇ 遠景(地区の全体像)

遠景(1km程度)では、海と空と山々を背景とした集落の全体像を見渡せ、特徴的な背景となる景観があります。



富士見峠展望台より



渡浮根展望台より

◇ 中景(通りにおける見通しと建物・塀の高さ)

中景(70m~250m程度)では、遠くを見通せる場所は少ないですが、低層建築物が多いため、圧迫感は少なくはなっています。

D/Hの目安
一般に4以上で
囲繞感はなく、
1~2程度では
心地よい囲繞感
が存在するとさ
れています。



本村中央通り



式根本道(おくやま~佐助)

◇ 近景(建物外壁や外構の素材・色彩、広告看板)

近景(3m程度)では、白~グレーの色味が強くなっています。風除けに家の敷地を囲うため、石の塀や樹木が連続した空間もみられます。



白いまち並み



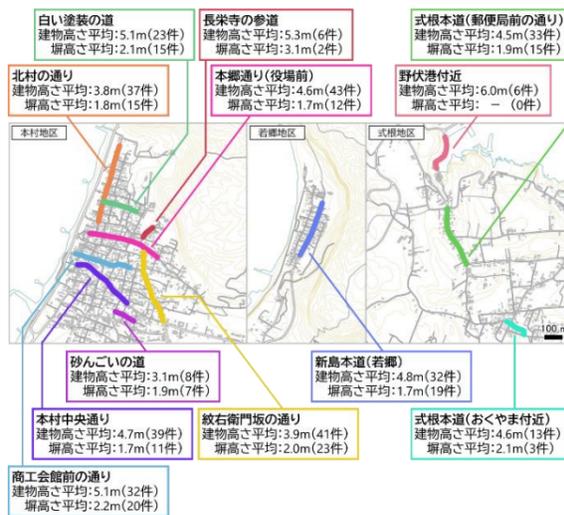
コーガ石塀と植栽

2. 現場詳細調査からみた景観の特徴

◇ 建築物の規模

主要な通りにおける建築物の平均的な規模は、

- ・階数 1.4 階建て
- ・延床面積 249 m²
- ・高さ 4.5m
- ・塀等の高さ 1.9m となっています。



◇ 建築物の素材や形態

素材は、サイディング、モルタル塗装、トタン、コンクリート、木質等に加え、コーガ石を多く目にします。屋根形状は陸屋根・切妻・寄棟が混在し、防風のための塀や垣根を廻す家が多くなっています。建物、外壁や塀に、地場産材のコーガ石を用いている例が多く見られます。



コーガ石塀の色合いの違い

◇ 色彩

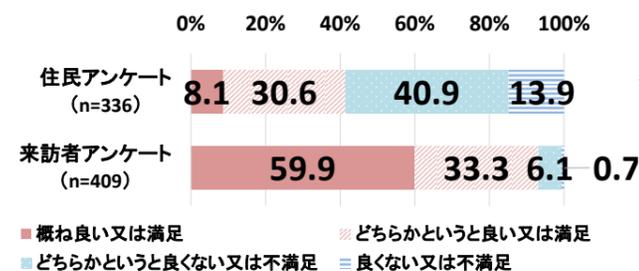
村内の建築物の彩度は、概ね低彩度に収まっています。コーガ石は、N(無彩色)に近いYR(黄赤)~Y(黄)系の色味を帯びており、外壁や塀の色彩はこの素材の影響が大きくなっています。カイツカイブキやマサキといった常緑樹やメダケの垣根のY(黄)~GY(黄緑)系も多くみられます。屋根は、N(無彩色)系からY(黄)系の中明度、低彩度に集中しています。ライトグレー、とくに屋根色としては珍しいホワイト、オフホワイトが、展望台からの俯瞰では、陸屋根の屋上床部分に防水塗料の鮮やかな緑系が多く観察できます。

明るい屋根色が多いのが新島村の特徴

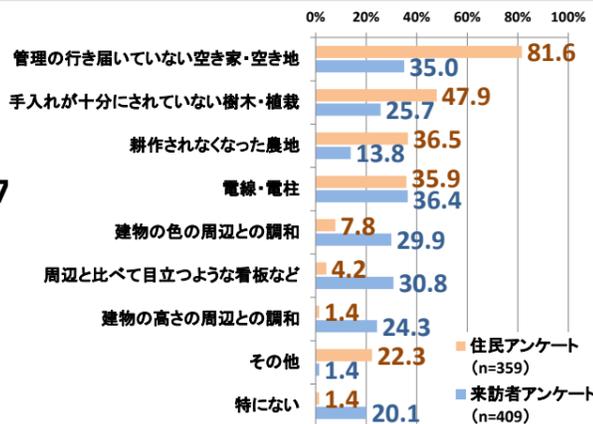


3. 景観に対する人々の意識

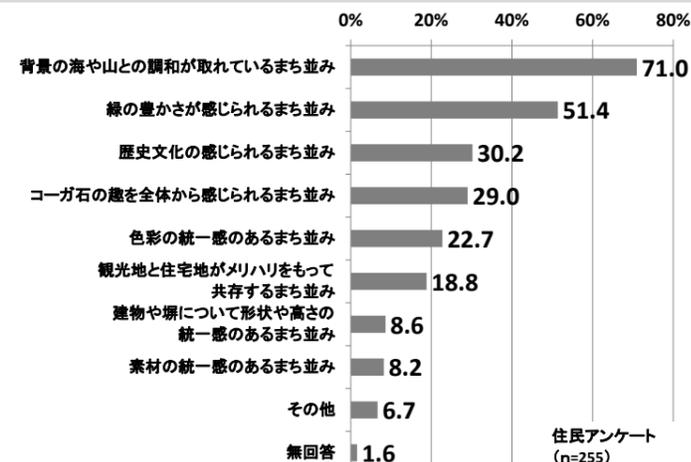
●全体的な評価...来訪者は9割超、住民は4割弱が肯定的に評価。新島村の景観の価値高いですが、その状態について住民が懸念していることがうかがえます。



●課題感...住民・来訪者ともに管理不足の空き地・空き家や樹木・植栽、電線・電柱等を懸念。住民は郊外の農地を、来訪者は建物の色や高さ、看板等により気にするなど、課題認識にややギャップ有り。



●好ましいと思う景観...要素として、豊かな自然との調和、コーガ石をはじめとする歴史文化、色彩の統一感や観光地と住宅地のメリハリを持った共存など傾向は多様化。



新島村の景観の課題として、以下のように整理されます。

全体的な課題

- 守る**
 - ✓ 現状ある程度調和がとれている建物の高さ・色彩の継承
 - ✓ 島の象徴である白く美しい砂浜の保全
 - ✓ 遠景で背景となる山林や、集落外の農地の保全
- 直す**
 - ✓ 管理不足の空間(空き家、空き地、植栽等)の解消
 - ✓ 一部で目立つ色彩や高さ、屋外広告物について周辺環境や生態系と調和した誘導
 - ✓ 落書きされたコーガ石の修景
 - ✓ 防災対策と連動した無電柱化の推進
- つくる**
 - ✓ 観光スポットや公共施設、島民に身近な空間等での魅力的な景観形成
 - ✓ 地域資源であるコーガ石やガラスを活用した景観形成
- 協働**
 - ✓ 島の景観の価値についての普及啓発
 - ✓ 地域主体の景観の機運醸成・取組促進

地区別の課題

- 本村**
 - ✓ 山際、住宅地、商業地(都道沿い等)など土地類型に応じた景観誘導
 - ✓ 多くのエリアでは背景に山や海はあまり見えないので、建物同士の調和がポイント
 - ✓ 村の中心地であることを踏まえた、もてなしの景観づくり
- 若郷**
 - ✓ 島内では比較的落ち着いた住宅環境に即した景観形成
 - ✓ 背景に大きく反り立つ新島山との色彩調和や、グレーの砂浜、まとまったコーガ石の街並みの雰囲気に対応しい色彩
- 式根**
 - ✓ 新島に比べるとまちなかが緑に囲まれた静かな観光地のため、樹木などの自然色との色彩調和
 - ✓ 建物同士の間隔が広く、地形的に建物のスカイラインも不連続であるため、分散したスポットでも効果のある景観形成の取組

良好な景観形成に向けて

方向性

村の景観の現状や人々の意識、地域性などを踏まえ、次のような景観形成の方向性が考えられます。

方向性 1

**背景の自然景観との調和や、
集落の緑の保全・創出による
自然と一体となったみどりのまち並みづくり**



方向性 2

**コーガ石の保全・再生に重点を置いた
歴史文化を醸し出す景観まちづくり**



方向性 3

**白をコンセプトカラーにした
明るい景観まちづくり**



実現手法

良好な景観形成を実現させる手法として、「きっかけづくり」「ルールづくり」「実践」の3つの段階において、次のような取組が考えられます。

(1) 協働するきっかけをつくる

良好な景観像を共有する

- ✓ 地域の良い景観を収めた写真コンテストや、良好な景観を有する地域について、勉強し合うといった取組が考えられます。



景観づくりについて話し合う

- ✓ 行政・地域・市民・事業者などが参画した景観まちづくり協議会を結成して、定期的に景観について話し合うといった取組が考えられます。



(2) ルールをつくる

景観ガイドラインづくり

- ✓ 建築物について、良好な景観の目安となるルールをつくり、ガイドラインとして明文化することが考えられます。あまり厳しくならない範囲で、皆が守りやすい緩やかなルール設定することが重要です。



協定の締結

- ✓ 特に優れた景観形成を目指したい地域については、土地所有者等の全員の合意により協定を結び、より強いルールで景観を面的に守っていくことも考えられます。



(3) 実践する

色彩の工夫

- ✓ 塗る色を配慮したり、素材を厳選したりすることで、周辺の建築物や、背景の自然風景と調和した、まとまりのある色彩環境を生み出すことができます。



高さや形態の配慮

- ✓ 建築物の高さや、目立つ構造物を設けないように配慮することで、周辺の建築物や背景となる山並みと調和したスカイラインを形成することができます。



無電柱化

- ✓ 空への視界や、展望台からの眺望スポット眺めなどの良好な景観形成のため無電柱化を推進することが考えられます。防災効果も期待できます。



表札や看板のデザイン

- ✓ 建物周りで共通するデザインを取り入れることで、一体感を醸成することができます。コーガ石や新島ガラスといった地域の資源を活かした表札・看板やオブジェクトの設置などが考えられます。

